



NPO法人

# 昆虫食普及ネットワーク

コンフネット ニュースレター 第36号

Vol. 36 2025. 6. 1

寄稿：養蚕の新たな価値を生み出す

芦澤 洋平

(アシザワ養蚕)

山梨で養蚕農家をしています、アシザワ養蚕の芦澤洋平と申します。

同年代の初対面の方に「養蚕農家です」と伝えてもピンとこない方も多く、年配の方に話すと、「まだ存在し



出来上がった立派な繭たち

ているのか！」と驚かれることもあります。それもそのはず、多い時では200万戸もいた養蚕農家が今は130戸

ほどだそうです、よく考えると自分でも怖いくらい衝撃的です。

養蚕農家が減少した原因は、複雑な大きい要因がタイミング悪く重なり、今では無責任に言いたい放題できるほど多くありますが、要は「売れなくなった」という一言に尽きると思います。産業として蚕業を残したいと奮闘している私にとって、ここを解決しないことにはこれまで同様、責任が取れていないうちなのだと思います。

しかし、「売れない」は「価値がない」という事ではなく、お蚕には価値につながる可能性が確かにあります。シルク繊維だけでなく医療や医薬、宇宙に対してもお蚕は最先端で活躍できるポテンシャルがありますし、養蚕農家の仕事としては普通の事も現代の目でみれば意外な驚きや発見が生まれることがあります。

例えば「蛹」。

一般的な蛹は製糸後の副産物として出るもので、独特の香りがあります。多くは佃煮に加工されま



新鮮でぷりぷりの美味しそうな蛹

すが、アシザワ養蚕では販路の対応のため生の繭のまま冷凍して保存しており、場合によっては生冷凍の蛹が得られます。この蛹は匂いも控えめで、蛹化の時期を調整すれば柔らかい食用の蛹が提供でき、食としての新たな可能性を秘めています。

例えば「カミキリムシ」。桑の木の天敵はクワカミキリです。養蚕農家は害虫として捉えているので駆除の対象ですが、食材としてみるとこれがなかなか美味しい。実際に剪定した桑の枝からカミキリムシの幼虫を探し、それを食べるツアーを開催したこともあります。

こうした視点の転換により、養蚕業の枠を超えた新たな価値を生み出すことができていると感じています。お蚕も養蚕もできることはまだまだあります。新たな視点を取り入れ、可能性を価値にして社会に提供し、また来年もお蚕を育てる。そういった循環をこの先も続けていけるよう努力したいと思います。

(アシザワ養蚕)



カミキリムシ幼虫を捕って食べるツアー



## 活動報告

4月20日（日）～5月4日（日）

「バグズクッキング展」

～井上咲楽と作る楽しい昆虫料理～

吉祥寺「ギャラリーボンブラ」にて、パネル展を開催し、最終日に「虫屋台」と称した販売イベントを行いました。虫屋台では、弊会とゆかりのある企業様の蜂の子せんべいやコオロギのお菓子、その他グッズなどを販売しました。地元の方々をはじめ、虫屋台のためにいらしてくださった方もいらっしやり、とても楽しいお話を伺うことができよかったです。

（劔持 有紗）



5月11日（日）

「野食会」

昆虫食初心者向け新歓 BBQ イベントをお馴染みの日野市の河川敷広場にて行いました。

初開催でしたが、昆虫以外にも鹿肉やカエル肉といった多彩な食材が登場し、大勢の参加者と共に自然の食材の恵みを感じた非常に有意義なイベントでした。

昆虫以外の食材をお目当てに当イベントに参加して初めて昆虫食を体験したという方も大勢見られ、昆虫食の新歓イベントとしての役割を果たすことが出来たと思います。

やはり屋外での BBQ イベントは開放的なロケーションもあり大盛況でした。参加者の皆様からも好評だったので来年も開催する予定です。

（上野 流石）



## 6月の予定

「米とサーカスで昆虫を楽しむ会 89」

～空心に虫食を点ずる昼下がり～

日時：6月14日（土）12:00～15:00

開催場所：米とサーカス 高田馬場店

初めて米とサーカスの隔月イベントのレシピ担当をさせて頂きました。

梅雨の時期ということもあり、「昆虫中華料理(点心)」で美味しくて体にいいメニューを考えました。

大豆ミートと合わせた蚕入り水餃子、お手製コオロギラー油を添えた大根餅、キウイとタガメで爽やかさのある豆花(とうふあ※豆乳を固めたデザート)と3品。

皆さまの昆虫食の楽しみが広がるキッカケの一つになれば幸いです。

（田代 真由美）

「昆虫食のひるべ 150」

フン茶飲み比べ会～虫茶菓子付き～

日時：6月29日（日）14:45～17:30

開催場所：よるのひるね 阿佐ヶ谷

今回は餌の異なる各種幼虫10種類のフン茶を試飲し、香りや味の違いを楽しんでいただきます。虫茶菓子も用意してご来店をお待ちしています。

（内山 昭一）



※写真はモンクロシヤチホコ幼虫のフン茶

### 編集後記

本号をお読みいただきありがとうございます。

早いもので、2025年ももうすぐ折り返しですね。紫陽花が咲く時期となりました。イベントも新鮮な昆虫を楽しめる時期となり、昆虫×ジビエ×ゲテモノといった垣根を越えたイベント「野食会」に多くの方に参加していただき、ありがとうございました。

昆虫食のイベントは、年齢層様々でお子様から老若男女問わず、お一人での参加の方もいらっしやいます。昆虫食を楽しんでいただけるよう、随時イベントを開催しておりますので、ぜひご参加ください。

（劔持 有紗）

NP0 法人昆虫食普及ネットワーク

<https://www.entomophagy.or.jp/>